

『あの犬この犬』

◇登場人物

・まさき

・みのる

・すじお／女

とある倉庫。

すじお、倉庫の隅で、地面を見つめながら突っ立っている。

しばらくすると、まさきが息を切らせて倉庫に飛び込んでくる。

すじお、驚いて身動きが取れないでいる。

まさき、すじおには気付かず、椅子に座り呼吸を整えている。

すじお、息を殺し、じつとまさきを見つめている。

まさき、立ち上がり、入り口の方へと歩く。

すじお、その間に、屈んで陰に隠れる。まさきの方からは、尻

だけが見える。

まさき、外をキョロキョロ。みのるが来るのを待っているよう。

まさき（呟くように）何してんだよ。

まさき、椅子に戻りながら携帯電話を取り出し、画面を操作する。

すじおの携帯がけたたましく音を立てる。

まさき、驚いて音のする方を見つめる。

すじお、出るに出来ない。
音が止む。

まさき、立ち上がり、すじおに向かってゆっくりと歩いていき、やがて立ち止まる。

間

まさき、つま先ですじおの尻をコツンと蹴る。

間

まさき なんだ、人間のお尻だと思ったら、ただのサッカーボールじゃん。

まさき、振り返り、入り口の方まで歩く。と、突然また向き直り一呼吸入れると、急にダッシュをはじめる。目は一心にすじおの尻を見つめている。

すじお、激しい足音の恐怖に耐えられず、立ち上がる。

すじお やめて！

まさき、急停止。

みのる、倉庫に入ってくる。

まさき（白々しく）あれ？ サッカーボールが立った！

みのる なに？ なんの遊び？

まさき（すじおを指し）こいつさ、実はサッカーボールなんだってよ。

みのる え？ こんな顔して？

まさき そう。蹴っていいぞ。

みのる やった！

みのる、ハイキックのモーションに入る。

すじお、身体を投げ出してその足を押さえつける。

すじお やめて！（半べそ）あゝ！俺サッカーボールじゃないんで、

蹴らないでください！

まさき じゃあ野球やろう、野球！どっかにバット……

すじお、今度はまさきの足にすがりつく。

すじお やめて！バットやめて！それならまだ蹴られる方がいい！

みのる あ、そうなの？（助走をとる）

すじお（みのるの足にしがみつく）違うー！それを蹴っていいととらな

こやー！

みのる はい？

まさき（みのるに）いま何時？

みのる、手首の辺りを確認するも、腕時計はしていない。

みのる わかんない。

まさき（自分の携帯電話で時間を確認）一四時五〇分です……今日の集

合時間は？

みのる 朝の八時です。

まさき、すじおを睨みつける。

すじお、その眼力に気圧されて、後ずさり。

まさき なにしてた？

すじお ……なにが？

まさき なんで遅れた？

すじお ……遅れてないよ。

まさき、すじおに銃を向ける。

すじお 違う違う！厳密には遅れてない。あのね、俺は七時にはいたの、

ここに！実際は！お前らより先に来たの！もし七時集合だ

ったとしたら、遅れてたのはむしろお前らだよ！

まさき、すじおに一步すり寄る。

すじお 視察に行つてたの！宝石屋に！強盗するからさ！大事で

しょ、そういうの！

まさき あの店は昼前にしかオープンしないんだよ。

すじお ……外観をね！大事でしょ、外観！ね！

まさき じゃあなんで、ここに戻って来なかった。

すじお ……迷つたの。道に。

まさき あの店からこの倉庫まで、道一本だろ。

すじお 逆方向に行っちゃったわけ。

まさき そうか。でもよく戻って来れたね。

すじお そうなんだよ。大変だったよ。でもさ、地球って丸いだろ？ だ

からさ、ずっとまっすぐ行ったらさ、なんとかここに辿り着いて。

まさき ……ふん。

まさき、すじおに一步すり寄る。

すじお たまたまだよ！ 今日だけは、なんか知らんがこんなコトになっ

ちやっただけど、でも普段は俺、時間に遅れることってないでしょ？

まさき よりによって今日にね。もう、強盗の時間も終わっちゃったし。

でも、よくまあこのうと、ここで過ごしてられますね。

すじお ……まあ、そこが俺のいいところだよ。

まさき (みのるに) 野球やろうぜ！

すじお やめてください！

みのる いいよ、俺キャッチャーな！

まさき キャッチャーかよ。打たなくていいのか？

みのる いいの？ 打っていいの？

まさき いいよ。

すじお ダメだよ！

みのる、銃を取り出し銃口をすじおに向ける。

みのる 撃つよ！

すじお え、そっち？

みのる なにが？

すじお バットじゃないの？

みのる バットがいいの？

すじお 嫌だけど。

まさき、銃をすじおに向ける。

間

すじお おい、やめろよ。危ないだろ。

まさき お前、誰だ？

間

すじお はい？

まさき 警察か？

すじお ……は？

みのる え？ どういうこと？

まさき 思い出してみろ！ 今さっき宝石店のこと。警察が来るの、や

けに早すぎると思わなかったか？

みのる わかんない。俺腕時計持っていないから。

まさき 感覚でわかるだろ。警察は最初からわかってたんだよ。俺たちが

今日、あの宝石店を襲うってことを。

みのる どうやって？

まさき 決まってるだろ。この中に、警察の犬がいるってことだ。

みのる え？ 俺たちの中に、警察犬が？

間

まさき 警察犬って言うと、またちよつと違うんだよ。

みのる 違うのか？

まさき うん。生きものとして変わってくるんだよ。

みのる 確かに、警察と犯罪者じゃ、生きてる世界が違うからな。

まさき そういう話でもないんだよな。

みのる わからんな。

まさき まあいいや。(みのるに) 誰だと思う？

みのる ・・・なにが？

まさき 話の流れで掴めよ。(すじおに) てめえ、裏切りやがって！

すじお 何言ってるんだよ。俺が何を裏切ったってんだよ。

みのる 俺たちの期待をだよ！

まさき 違う！ 俺たちをだよ！

すじお なに言ってるんだよ！ 俺が警察？ バカなことを言うな！ 知

らねえよ、そんなの。

まさき 嘘つけよ！ お前が情報流してたんだろ！ お前なら俺たちが

いっどこにいて何をしてるか、全部把握してるからな。お前が作った

スケジュールだもんな。

すじお おい、ふざけんなよ！ 俺がそんなことすると思うかよ。

まさき どう考えてもそうだろ！ 映画撮るとか言って、実際は証拠映像

押さえてたんだろ？ てことは、あの女も警察か。

すじお 待てよ。全然話がかめないよ。何があつたかを教えてくれ。

まさき こつちが聞きてえよ。

みのる 忘れちゃったの？ 俺たちが宝石店に・・・。

まさき (さえぎって) 知ってるよ！

みのる 知ってるじゃん。

すじお 第一、俺は宝石店には行ってないんだよ？ もし俺が内通者なら、

現場まで一緒に行くはずだろ？ どっか行つちまうかもしれねえん

だから！

まさき 怪我したくなかったんだろ？

すじお どういうことだよ？

まさき 現場にな、パトカーと一緒に救急車も来てた。おかしいと思った

んだよ。誰も怪我人なんていないのに。てことはだ、警察はハナから

負傷者が出ることを想定してたんだ。銃撃戦でもする気だったんだろ。

すじお 待てよ。違うよ。全部違うよ。何のためにそんなこと・・・。

まさき 女はどうした？ どこにいったんだ、お前の彼女は？

すじお お前らと一緒にだったんじゃないのかよ。

まさき (みのるに) 女は？

みのる え？ あ、え、・・・他の男のところか・・・

すじお ・・・え？ 他の男？

みのる ・・・わわ、別れようって。

すじお ・・・何言ってるの？

まさき お前ら、本当に付き合ってたのか？

みのる やめろよ、男同士だぞ。

まさき お前じゃねえよ。

みのる もうさ・・・別れる！

すじお、座り込む。

すじお・・・なんでバレたんだ・・・。

まさき どうとう認めたか。自分が警察の犬ってことを。

すじお そのことじゃねえよ。

まさき え？

みのる、まさきの肘をつつく。

まさき (みのるに) うるせえよ。

みのる 何も言っていないじゃん。

すじお 浮気したんだよ。

間

まさき はい？

みのる お前、あんなにいい彼女がいて・・・。

まさき、みのるを訝しげに凝視。

すじお でも、一回きりだ。一回しかやっていない。というより、正確に

は浮気じゃない・・・でもまさか、それがバレたなんて・・・。

まさき (呆れたように) なんだよ、この流れ。

みのる それ、いつの話だよ。

すじお 昨日。

まさき・みのる 昨日？

すじお 昨日から今日にかけて。

まさき お前、じゃあまさか・・・

すじお そうだよ。俺が今日集合時間に遅れたのは、女を抱いていたからだよ！

間

すじお これで晴れたろ？ 俺は無実だ。裏切り者なんかじゃない。

まさき 彼女にとっては裏切り者だぞ。

すじお そういう痛いところを突くな！

みのる なんて浮気なんかしたんだよ。

すじお それは・・・ムラムラしてたんだよ。

間

まさきとみのる、呆然とすじおを見つめている。

すじお、だんだん泣きそうになってきている。

すじお (半べそ) 昨日お前らとの打ち合わせが終わった後よ、なんかスゲ

ームラムラしたんだよ。そしたらさ、抱くじゃん！ デリヘル呼ぶじゃん！

みのる 嘘をつくな！

すじお 本当だよ！ なんなら、その女に聞いてみるか？

みのる 嘘だ！ 信じられるか！ そもそもデリヘルに本番はないはずだろ！

間

すじお それは女の子次第だろーが！

間

まさき なら彼女を抱けばいいだろ。

すじお だってすぐ抱きたかったんだもん。あいつ仕事あったし。それにまとまった金も入ってくるしさ。だから、延長につぐ延長で…。

まさき てことはお前、昨日の昼間からずっとか？

すじお、泣きながら頷く。

すじお 今日の昼過ぎまで……。

まさき お前狂ってるよ。

まさきとみのる、呆然とすじおを見つめている。

すじお 多分昨日食ったホットドッグのせいだよ！ あれ食うと、いつも

ムラムラするんだよ！

まさき じゃあなんで昨日食ったんだよ！

すじお なんだよ！ じゃあいつだったたら食っていいんだよ！

まさき 強盗する日以外だよ！

すじお 真つ当なこと言ってんじゃねえよ！

みのる ……ちよつと待て。いつもってことは、浮気は一回だけじゃ……

すじお 当たり前だろーが！ 何度も抱いてるよ！

みのる この……ほら吹き野郎！

すじおとみのる、睨み合う。

まさき 待て待て。とりあえず、お前は警察じゃないんだな？

すじお ああ。

まさき それなら一安心だ。

すじお 一安心じゃねえよ。俺はどうすりゃいいんだよ。

みのる 俺だってどうすりゃいいんだよ！

まさき 知らねえよ。自業自得だ。(みのるに) お前に関しては、何で怒ってるかわからん。

間

すじお、ひざまずき、ぼんやり天を見上げる。

すじお ごめんよお。浮気なんかしてごめんよお。こんなつもりじゃなかったんだよ。仕方なかったんだよお……。

すじお、両手で顔を押しさえ、声に出して泣く。

すじお せっかく金も手に入ったのによお。いい思いさせてやれると思っただのによお。俺はなんて間の悪い男なんだ。お金なんあっても、あいつがいなかったら、全然意味がねえよ！ こんなんなら、お金なんていらねえ！ くそ！ ちくしょう、ちくしょう！

すじお、何度も地面を叩き付けている。

まさき、みのも、その姿をじっと見つめている。

まさき ……残念なお知らせだけどよ、お金もないぞ？

間

すじお ……ん？ ん？ ん？

まさき 警察来ちゃったからよ……。

すじお ……なんでだよ！ 金もないのかよ！ なんでだよ！ 彼女にもフラれて、金もなくて、どういふことだよ！

まさき いらないうって言ったじゃねえか！

すじお 言ったけど！ あれは建前だろーが！ ああ言わないと格好つかないだろーが！

まさき 今さらカッコつけてんじゃねーよ！ このヤリチン野郎！
すじお そういうデリケートなことは言うな！

すじお、膝を抱えてうつむく。

間

みのも、ポケットからネックレスを取り出し、無言ですじおに差し出す。

すじお (気付き) ……なんだよ。

みのも あげる。

すじお ……は？

みのも お前の彼女が、これを欲しがってた……追いかけるよ！ 取り戻せよ！

すじお お前……。

すじお、立ち上がり、ネックレスを受けとる。みもるの目を見つめ、大きく頷く。

すじお (倉庫を出て行きながら) 愛してるよー

すじおの背中を見つめる、まさきとみのも。
みのも、膝から崩れ落ち、おいおいと泣く。

まさき おい！ どうしたんだよ！

みのる ……好きだったんだよ！

間

まさき、一歩後ずさり。

まさき お前、そっちだったのかよ！

みのる ちがうちがう！ あいつじゃない！ あいつの彼女の方だよ！

まさき はあ……はあ？ じゃあまさかお前、さっきのネックレス、お前があの女にプレゼントするために……。

みのる、無言でうなづく。

まさき お前な、今日会ったばつかだろ？ そんな簡単に好きになっ

じゃねえよ。

みのる 仕方ないじゃないか。でももう、諦めるよ。あいつの方が相応しい。

まさき だけど、彼女にも他に男がいるんだろ？

みのる え？ いないよ？

まさき は？ お前が言ったんだろ？

みのる ああ。そうすれば、あいつが彼女と別れてくれるかなって。

まさき てことは、彼女は、あいつの浮気のこと……。

みのる 知らないと思う。

まさき そうか……。

間

まさき、怪訝な顔つきになる。

まさき まずくねえか？

みのる なにが？

まさき このまんまいくと、あいつは自分で自分の浮気のことを白状することになるぞ。

みのる ……あ！ そう……なの？

まさき 止めさせないと！

まさき、携帯電話を取り出し、電話をかける。

すじおは携帯電話を忘れていったらしく、倉庫内に着信音が響く。

まさき あいつ、携帯も持たずに、どうやって彼女のところに行くつもりだ

よ。お前、彼女の番号とか知ってるか？

みのる 知らない。あ！ しおりに、俺たち全員の連絡先が載ってたよ！

まさき 本当か！ そこに彼女のも？

みのる 多分。

まさき (手を差し出し) しおり。

みのる 俺そんな名前じゃないよ。

まさき しおりを出せよ！

みのる ああ。

みのる、辺りをキョロキョロ。

まさき なにやってる？

みのる 忘れてきた。

まさき なにを？

みのる しおり。

まさき どこに？

みのる 宝石店。鞆ごと。

まさき はあ？ なにやってんだよ！

みのる 仕方ないじゃん！ 強盗するときに鞆持ってたら邪魔だろ！

まさき なんて鞆なんて持って来たんだよ！

みのる 荷物をいちいち手に持つのは面倒だろ！

まさき それならリュックでいいだろ！ ったく、手提げ鞆なんて持って

くるから……。

みのる ……なんだよ。手提げ鞆がなんか悪いことしたかよ。

まさき お前がしたんだよ！

まさき、落ち着かずウロウロ。苛立っている様子。

みのる どうしたんだよ？

まさき しおりを向こうに忘れて来たってことは、俺たちの身元が割れる

のも時間の問題だ。どうやって逃げ切る？

みのる 走る？

いつのまにか、倉庫の入り口に見知らぬ女が立っている。

女 あのー……。

まさき はい？

女 あれ？ お客さん、二人っすか？

みのる (まさきに) お客さん？

まさき まあ、いまは二人ですけど。

女 あのー、3Pとか聞いてないんすけど。

まさき はい？ すいません。何の話を……。

女 (さえぎって) 別にいいすけど、ちゃんと料金二人分貰いますよ。

まさき え？ ……まさか、あの野郎……。

みのる、いつのまにか、怒りで体を振るわせている。

みのる ち、ちくしょー！

みのる、女に勢い良く抱きつく。

女 ちょっと！ まだ時間計ってないんすけど。ちょっとタンマ！

みのる ちくしょー！

みのる、自棄になって叫び続けている。

照明 F・O

了